

平成 27 年度学術賞受賞者

北 野 正 剛 博 士

大分大学 学長

研究業績 消化管がんに対する内視鏡外科の根治性に関する多施設共同研究

Prospective multi-center trials for laparoscopic
gastrointestinal cancer treatments

北野正剛博士のプロフィール

北野正剛博士は和歌山県串本に生まれ、10歳から福岡県に移り住み中学生のころから刊行が始まった講談社ブルーバックスシリーズに魅せられ理系の分野に興味を持つようになりました。その後、福岡県立朝倉高校、九州大学医学部に進学されました。

医学部6年生の時、臨床講義に手術着のまま颯爽と現れる外科医の力強さに惹かれ外科医への道を歩むことになったとのこと。臨床大学院の時には、食道静脈瘤出血で手術をしても多くの患者が肝不全で亡くなるのを目の当たりにし、その頃始まった内視鏡的硬化療法を学ぶため、第一人者のケープタウン大学のターブランシュ教授の元に留学したのが低侵襲治療への第一歩だったとのこと。当時の九州大学第二外科杉町圭蔵教授の理解を得て、この治療法の開発普及に努めた結果、多くの命を助けることができました。ただ、外科手術を不必要なものにしたということで、一時期「外科の敵」だと言われたのも懐かしい思い出そうです。

1990年になり腹腔鏡手術が欧米で始まったと聞き、すぐに友人であるコロラドのステーグマン教授(静脈瘤結紮術の開発者)の元で見学し2週後1990年12月13日に西日本で最初に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行したのが内視鏡外科との馴れ初めです。1991年には世界初となる腹腔鏡下の胃切除に成功しています。その後、大腸がんや肥満糖尿病の外科手術などを次々に手がけられるとともに、学会活動では日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、国際内視鏡外科連盟、アジア太平洋消化器内視鏡学会など理事長として医学医療発展のための組織を運営されました。このように多くの仲間と共に内視鏡外科を発展させ、世界に類を見ない規模と質の高い臨床試験を完遂して標準治療の確立に貢献したことが今回の受賞につながりました。1993年に大分大学に赴任して以来、次々に新たな分野に挑戦する博士の姿勢に感銘した多くの若い有能な教室員に恵まれたことが今日までの成果に繋がっています。

(文責 森 正樹)

業績のあらまし

北野博士は、1990年に一早く、我が国に腹腔鏡手術を導入し、1991年には世界に先駆け、胃がんに対する腹腔鏡下胃切除術の第一例目を施行しました（SurgLaparoscEndosc 1994）。又、同年には、我が国初のアニマルラボによるトレーニングコースを主催するとともに、引き続き腹腔鏡下胃切除術研究会などいくつかの研究会を立ち上げ、これまで約800名に研修の機会を提供し、がんに対する内視鏡外科の普及につとめてきました。アジアでは、AETF（Asian Endosurgery Task Force）を2004年に立ち上げ、日本の高度ながん医療の情報と技術を約1,200名に伝えています。そして、今や内視鏡外科は、160万人以上に施行され、胃がん手術の45%、大腸がん手術の50%、下部直腸がん手術の65%が腹腔鏡下にて行われるまで普及しています。

北野博士は、わが国の内視鏡外科のリーダーとして25年以上にわたり、がんに対する内視鏡外科の安全な普及に貢献してきました。この手術は、患者や社会のニーズに応えるべく術式の改良が重ねられ、現在の低侵襲性手術の位置づけを確立いたしました。この手術療法は、彼らの質の高い臨床研究の結果に裏打ちされ、本邦での保険収載を経て、現在は海外にも普及しています。内視鏡外科手術の臨床研究においても、多施設共同研究のリーダーとして活躍してきました。2004年から9年間にわたり、厚生労働省科学研究北野班の班長を務めており、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の多施設共同研究JCOG0404の研究代表者として、進行大腸がんの根治性に関する第III相試験を完遂させました。特に手術療法の臨床試験では世界に類を見ない大腸癌患者1,050例の大規模試験であり、短期成績が昨年発表されました（Ann Surg 2014）。胃がん領域においても、進行胃がんに対する腹腔鏡下胃切除術の安全性に関する第II相試験結果を報告しました（WJS 2015）。このように北野博士はわが国の質の高い内視鏡外科手術に関するエビデンスの発信に多大な貢献をしています。

さらに1990年後半より内視鏡外科手術が癌細胞にどのような影響を及ぼすか基礎研究を展開し、種々の動物モデルを用いて、がんの増殖・浸潤・転移に及ぼす炭酸ガス気腹の生物学的影響を報告してきました。この基礎研究は「内視鏡外科腫瘍学」と位置付けられ、臨床研究との両輪として、わが国のがんに対する内視鏡外科手術の発展に寄与してきました。このように北野博士は、豊かな着想と多施設共同研究をすすめる卓越したリーダーシップを持ち、胃癌・大腸がんをはじめ消化器がんに対する内視鏡外科手術の発展にすぐれた功績を示し、現在、日本内視鏡外科学会名誉理事長、国際内視鏡外科連盟会長およびアジア太平洋消化器内視鏡学会会長としてもこの分野の発展に貢献しています。（文責 森 正樹）

略 歴

- 1976年 九州大学医学部卒業
- 1981年 九州大学大学院修了
- 1983年 ケープタウン大学（外科 Senior consultant doctor）
- 1993年 大分医科大学第1外科助教授（診療科長代行）
- 1996年 大分医科大学第1外科教授
- 2005年 大分大学副医学部長
- 2011年 大分大学長